

2 倍体と $2n=c$ 276 の 4 倍体が観察され、種内倍数性が存在することが判明した。また、チャボヘゴは $2n=274$ を示し低 4 倍体であった。観察した核板中には、各種とも共通して小型の中部動原体型の染色体がみられた。従来、ヘゴ属には $x=69$ の 2 倍体のみが知られ、細胞学的に均一であると報告されてきた。しかし、台湾から 4 倍体種が 1 種報告されているし、今回もクサマルハチとチャボヘゴで倍数体や異数体が確認された。アジアのヘゴ属は Holttum (1963, 1965) によってさらに *Cyathea* 亜属と *Sphaeropteris* 亜属に分類されているが、倍数体種は今のところ *Cyathea* 亜属のみにみつかっている。

□Sharma, B.M. & P.S. Jamwal: **Flora of upper Lidder Valleys of Kashmir Himalaya, Vol. 1** 269pp. 1988. Scientific Publishers, Jodhpur, India. Rs. 275. 単行本だが、Journ. Economic and Taxonomic Botany の Additional Series No. 4 というので、雑誌に分類されていたので、見落とすところだった。対象とされているのは、カシミールの中心地スリナガルの東方 50 km にある、5425 m の Kalahoi Peak を主峰とする地域である。この渓谷は巡礼地に通じており、観光客も多く、近年の自然破壊の進行から、緊急な調査の必要に迫られたとされ、本書は1976年から1980年の間の調査の成果である。裸子植物と離弁花類のリストが主体であるが、日本や BM の最近の業績が全く引用されていないのは片手落ちである。(金井弘夫)

□Munsi, A.H. & G.N. Javeid: **Systematic studies in Polygonaceae of Kashmir Himalaya** 215pp. 1986. Scientific Publishers, Jodhpur, India. Rs. 275 タデ科は特殊なもの以外はそれほど地域分化はないから、ほかのヒマラヤ地域にも使えるだろう。新種や新組合せも散見される。瘦果、花粉、表皮パタン、毛も整理されているが、写真の印刷が悪いのは惜しい。(金井弘夫)

□Stainton, A.: **Flowers of the Himalaya, a supplement** 86 pp., 128 pls. 1988. Oxford Univ. Press, Delhi. Rs. 225. さきに刊行された Polunin & Stainton の図鑑の補遺で、462 のカラー写真があらたに示されている。なお前者の写真部分を残して記述部分を半分に縮小した Concise flowers of the Himalaya (283 pp. Rs. 250) もできている。(金井弘夫)